

4. 人口マップ°

4 - 1. 人口構成

4 - 2. 人口増減

4 - 3. 人口の自然増減

4 - 4. 人口の社会増減

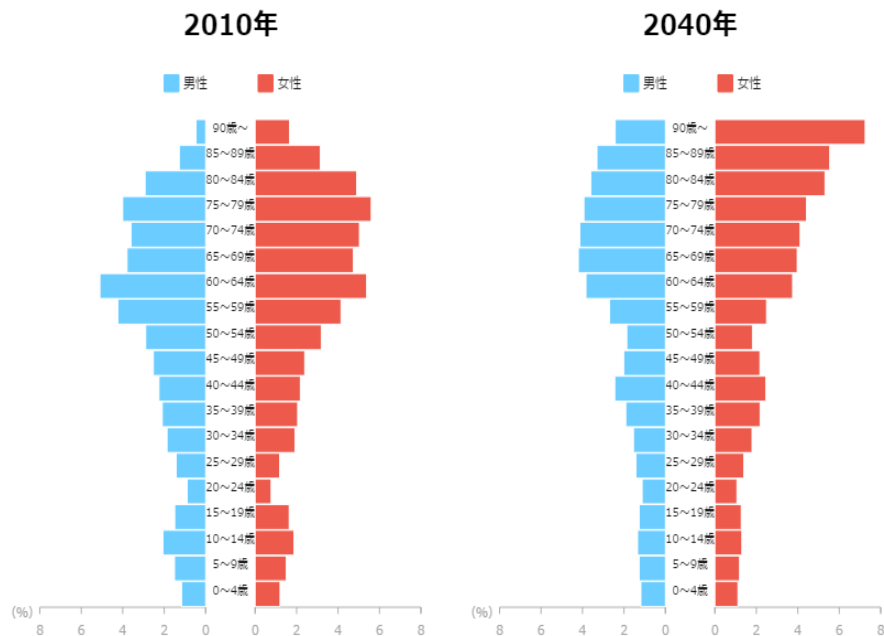
4 - 5. 将来人口推計

4-1. 人口構成

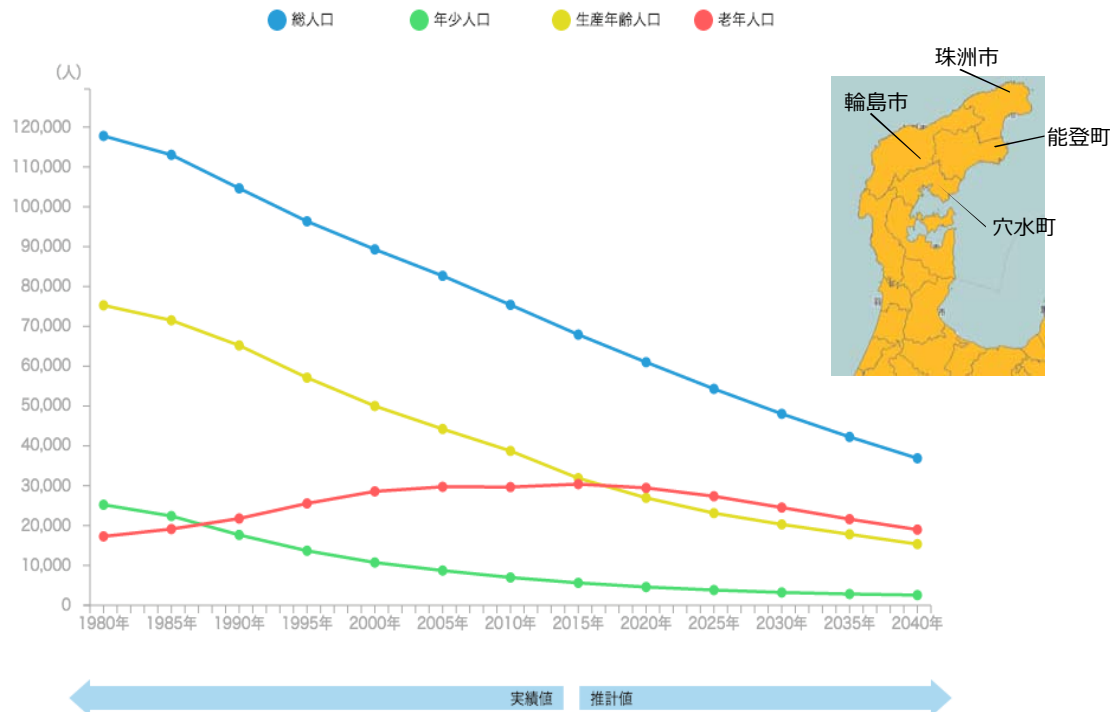
(データ出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「地域別将来人口推計」)

- 都道府県・市区町村単位で、年齢階級別（推移は年齢3区分別）に人口構成や人口推移を人口ピラミッドや折れ線グラフの形で表示することで、今後の**インフラ整備の方向性**、**医療・福祉政策等**を検討することができる。
 - また、**複数自治体をまとめる形**で人口構成や人口推移を把握・予想することができるため、今後の**政策連携の議論**にも活用できる。
- ※都道府県単位のデータは、1960年から2040年、市区町村単位のデータは、1980年から2040年（いずれも5年刻み）。

人口ピラミッドを表示（石川県珠洲市）



複数地域を合算した人口推移を表示
（「奥能登」4市町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町））



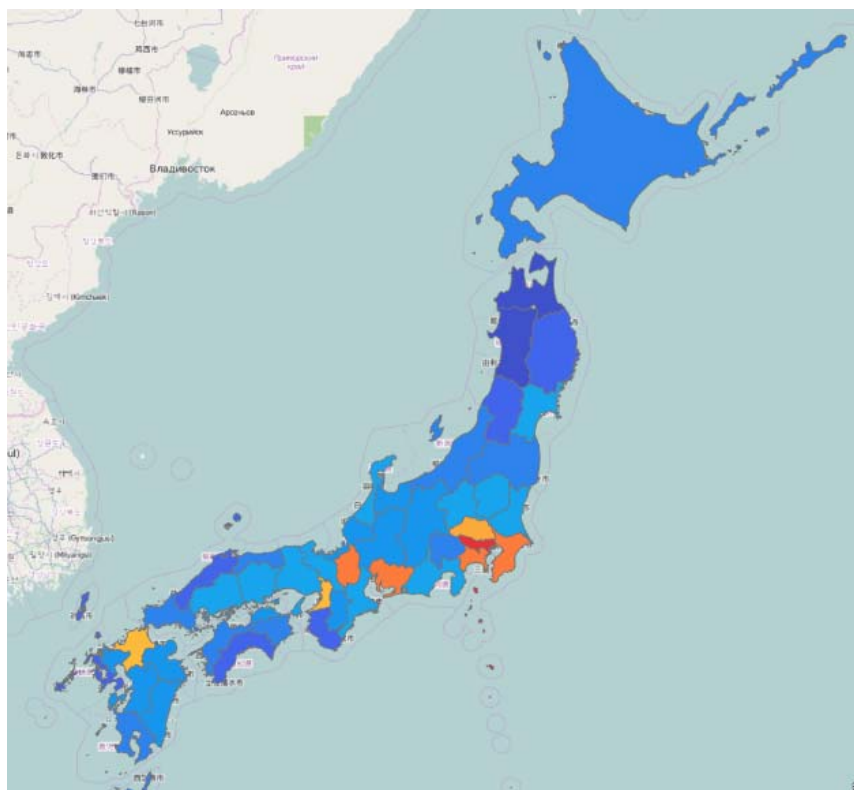
4-2. 人口増減

(データ出所：総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」他)

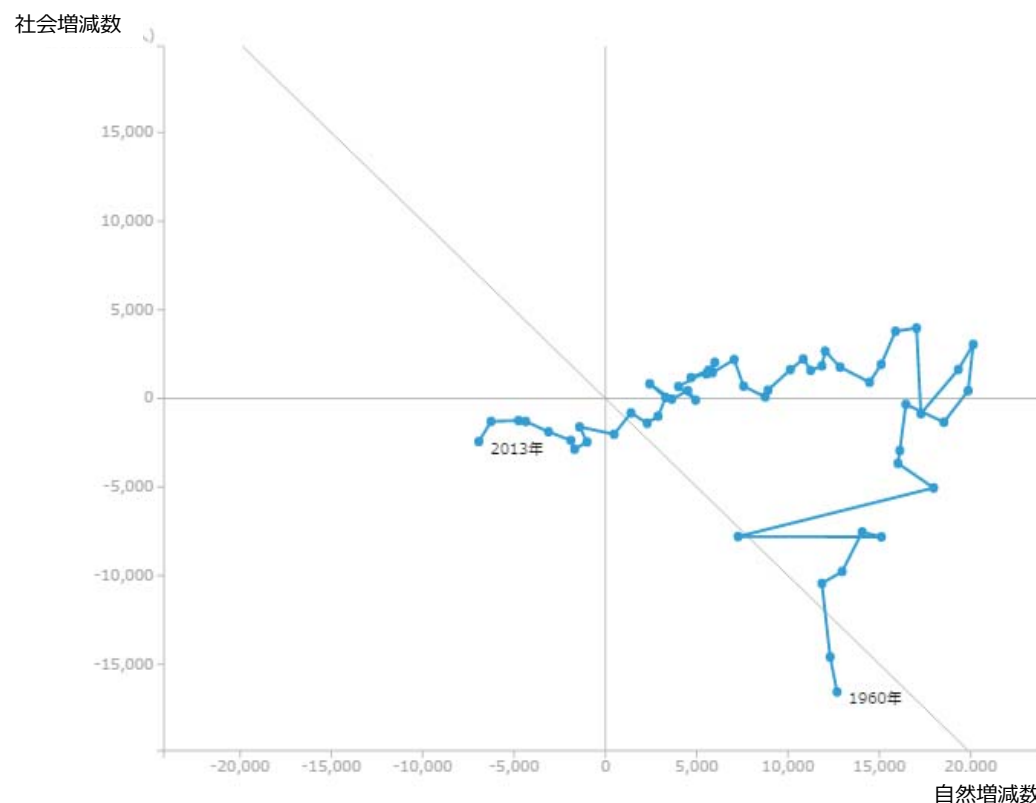
○都道府県・市区町村単位で、人口の増減率を表示できる。また、長期的な人口の増減の要因を**自然増減（出生数、死亡数）**と**社会増減（転入数、転出数）**に分けて分析することができ、人口維持のための要因別の施策について検討することができる。

※人口増減のデータは、都道府県単位では、1960年から2040年、市区町村単位では、1980年から2040年（いずれも5年刻み）。人口の自然増減・社会増減のデータは、都道府県単位では、1960年から2013年、市区町村単位では、1994年から2013年（いずれも毎年）。

人口増減率をヒートマップで表示



人口の自然増減と社会増減の推移を表示（群馬県）

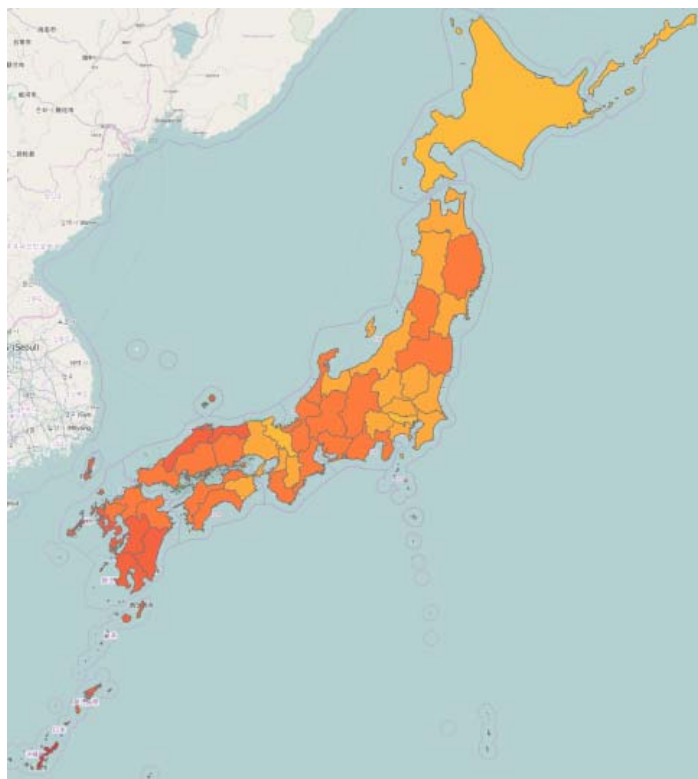
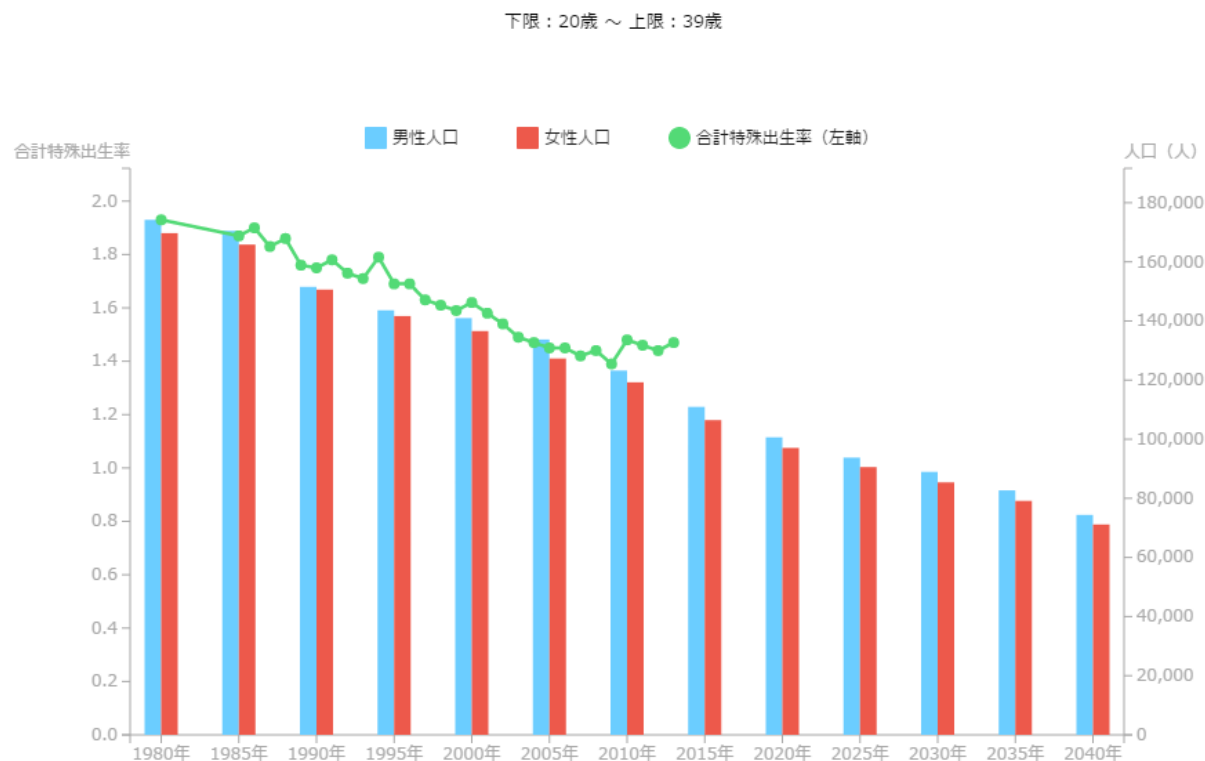


4-3. 人口の自然増減

(データ出所：総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」他)

- 都道府県・市区町村単位で、人口の自然増減の要因の一つである、**合計特殊出生率の推移**を把握することができる。また、**男女別・年齢階級別の人口**も同時に表示することができ、出生数増加のための基礎資料として活用できる。
- ※都道府県単位のデータは、1980年及び1985年から2013年（毎年）、市区町村単位のデータは2000年、2005年、2010年（前後合わせて5年間の平均値）。

合計特殊出生率をヒートマップで表示

合計特殊出生率と人口（20～39歳）の推移を表示
(山形県)

4-4. 人口の社会増減

(データ出所：総務省「住民基本台帳人口移動報告」)

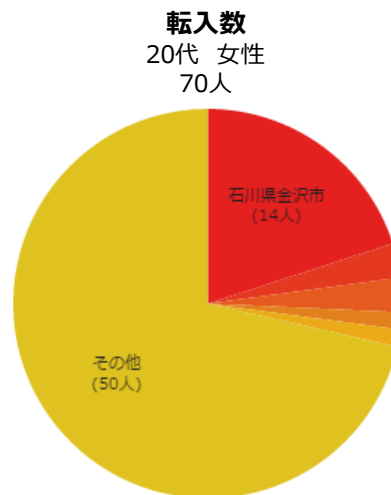
- 男女別かつ年齢階級別に、ある都道府県・市区町村からどこの都道府県・市区町村へ、どれくらい人口流出があるかを表示することで、効果的な人口流出防止対策を検討することができる（「人口ダム論」の検討）。
 - 男女別かつ年齢階級別で、どこの都道府県・市区町村からある都道府県・市区町村へ、どれくらい人口流入があるのかを表示することで、効果的な人口流入促進策を検討することができる（「人口ダム論」の検討）。
- ※データは、2012年から2014年（毎年）。

転出超過の状況を表示（石川県輪島市）

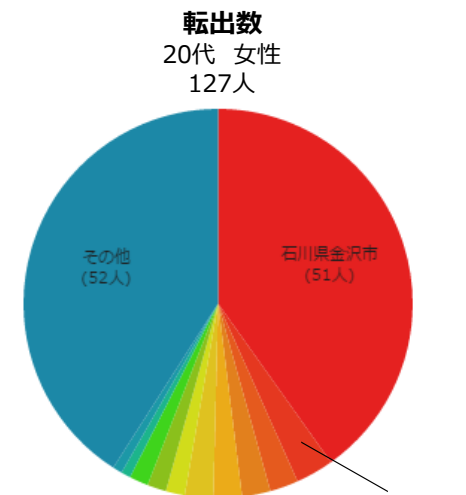


東京都大田区

具体的な転出入先を表示（石川県輪島市）



- 1位 石川県金沢市 14人 (20%)
- 2位 石川県穴水町 2人 (2.9%)
- 3位 石川県志賀町 2人 (2.9%)
- 4位 福井県福井市 1人 (1.4%)
- 5位 石川県小松市 1人 (1.4%)
- 6位 その他 50人 (71.4%)



東京都大田区

- 1位 石川県金沢市 51人 (40.2%)
- 2位 東京都大田区 4人 (3.1%)
- 3位 石川県穴水町 3人 (2.4%)
- 4位 石川県野々市市 3人 (2.4%)
- 5位 石川県小松市 3人 (2.4%)
- 6位 石川県七尾市 3人 (2.4%)
- 7位 石川県かほく市 2人 (1.6%)
- 8位 石川県珠洲市 2人 (1.6%)
- 9位 富山県富山市 2人 (1.6%)
- 10位 石川県能登町 1人 (0.8%)

4-5. 将来人口推計

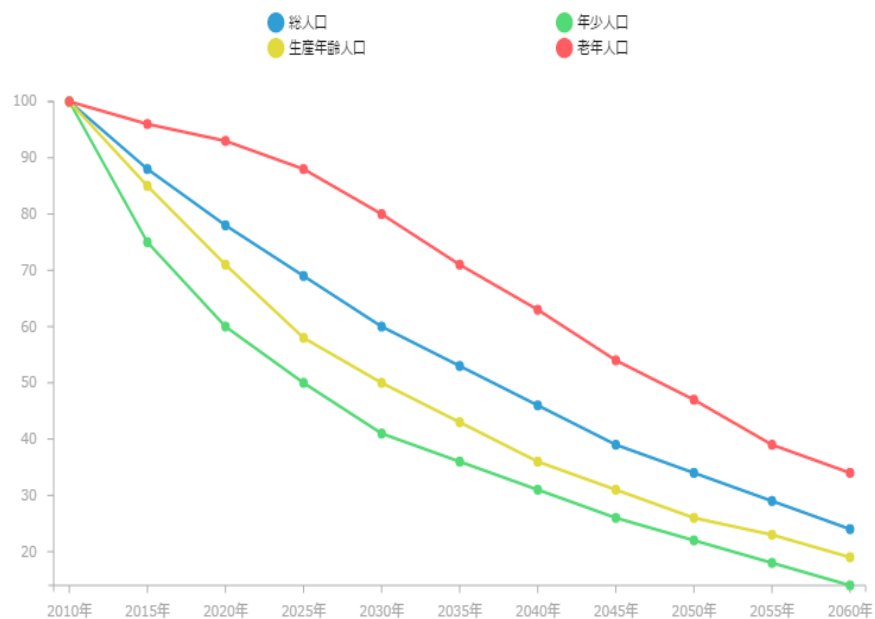
(データ出所：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「地域別将来人口推計」)

○都道府県・市区町村単位で、将来の人口推移や人口増減に対する自然増減と社会増減の影響度を表示することで、今後、**自然増減対策と社会増減対策のどちらを重視すべきかの検討**ができる。

※将来人口のデータは、2010年から2040年（5年単位）。福島県については、県単位での推計のみ。

年齢3区分別の人口推移（2010年=100）を表示
(徳島県三好市)

年齢3区分別人口推移



自然増減と社会増減の影響度を表示
(徳島県内自治体)



		自然増減の影響度(2040年)					総計
		1	2	3	4	5	
社会増減の影響度 (2040年)	1		北島町	石井町			2 (8.3%)
	2		舊住町、上勝町	徳島市、上板町、松茂町、東みよし町、佐那河内村、鳴門市、阿波市、阿南市、吉野川市	板野町		12 (50%)
	3			海陽町、美馬市、羊崎町、小松島市	勝浦町		5 (20.8%)
	4			美波町、神山町	つるぎ町		3 (12.5%)
	5		那賀町	三好市			2 (8.3%)
	総計		4 (16.7%)	17 (70.8%)	3 (12.5%)		24 (100%)

